

国際アートシーンでもっとも注目を集める1人、 コンセプチュアルアートの最前線を走るアーティスト、日本初個展

公立大学法人 京都市立芸術大学（学長：鷺田清一）は、2016年2月20日（土）から3月21日（月・祝）まで、京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA にて、新進気鋭のオランダ人作家ガイド・ヴァン・デル・ウェルヴェの個展「無為の境地」を開催します。

ウェルヴェは海外の美術館での大規模な個展や国際展へ数多く出展するなど、今もっとも注目を集めているアーティストの1人です。日本初個展となる本展では、最新作を含む全7作品を展示紹介します。

ウェルヴェは2000年からパフォーマンスの記録を基にした映像作品を制作しています。幼少期からクラシック音楽の教育を受けたウェルヴェは、作品に使用する楽曲も自身で作曲しており、音楽のように直感的に伝わる視覚芸術を理想としています。

本展は、過去10年間の作品群を回顧的に展示することで、ウェルヴェの領域横断的な作品に通底する主題と創作への動機の相互関係を解明かし、作家の制作に対する真摯な姿勢と卓越した才能を明示することを目的としています。また、本展はウェルヴェの作品を通して、オランダ現代美術の最前線の表現をご覧いただける貴重な機会となるでしょう。



《第8番「心配しなくても大丈夫」》



ガイド・ヴァン・デル・ウェルヴェ (Guido Van der Werve)

1977年、オランダ・パーペンドレヒト生まれ。38歳。

現在はハッシ（フィンランド）、ベルリンとアムステルダムを拠点に活動している。主な個展として、シアトル美術館、アムステルダム市立美術館、Luhring Augustine（ニューヨーク）、Marc Foxx Gallery（ロサンゼルス）等で開催されたものがある。グループ展では、ニューヨーク近代美術館、MoMA PS1（ニューヨーク）、ハーシュホーン博物館と彫刻の庭（ワシントン D.C.）、NCCA Moscow、台北現代美術館、コーチ＝ムジリス・ビエンナーレ（インド）、シドニービエンナーレ等に出展した。ニューヨーク近代美術館、ハーシュホーン博物館と彫刻の庭（ワシントン D.C.）、ルイ・ヴィトン財団美術館（パリ）、アムステルダム市立美術館、ポイマンス・ヴァン・ペニンゲン美術館（オランダ、ロッテルダム）等に作品がコレクションされている。

<http://roofvogel.org/>

ABOUT THE WORKS

ガイド・ヴァン・デル・ウェルヴェは、自らが行ったパフォーマンスの記録を基にした映像作品を制作しています。幼少期からクラシック音楽の教育を受けたウェルヴェは、パフォーマンスとしてもピアノの演奏を行い、作品に使用する楽曲も自身で作曲しています。また、マラソンやアイアンマン・トライアスロンなど、忍耐が必要とされるスポーツへ造詣が深く、作品中でも身体を酷使するパフォーマンスが目立っています。例えば、第九番「世界と一緒に回らなかった日」【※1】では、ウェルヴェは地理上の北極点に立ち、24時間かけて地球の自転と反対に回り続けることで、文字通り「世界と一緒に回らなかった」パフォーマンスを行いました。

映像の撮影手法は、シンプルな定点撮影から大掛かりなクレーンを使用したものがあり、映像フォーマットも16mm、35mm、最新の4K等と幅広く、70年代のビデオ・アートにみられるような粗野な映像から劇場用映画のようなハイクオリティなものまであり、内容に合わせた豊かな映像表現が特徴です。作品で常套される静的なカメラワークとバランスの取れた構図は、オランダ黄金時代の風俗画を彷彿させ、映像の情緒的な美しさを一層引き立てています。

代表作である《第14番「郷愁」》【※2】では、ウェルヴェはワルシャワの聖十字架教会からフレドリック・ショパンが埋葬されているパリのペール・ラシューズ墓地までの1703.85kmを、トライアスロン(水泳、自転車ロードレース、長距離走)で走破しました。ショパンは20歳で故郷のポーランドを離れ、38歳でパリで亡くなるまでの18年間、一度も故郷に帰ることができませんでした。亡骸はパリのペール・ラシューズ墓地に埋葬されましたが、遺言により心臓だけがポーランドのワルシャワの聖十字架教会に安置されました。ウェルヴェは、郷愁の念により分かたれた「心臓」と「身体」に人間が内包する根源的な悲哀を見出し、パフォーマンスを以てその物理的な距離を内在化しました。本作品はトライアスロンの記録映像と、作家が幼少期から憧れるアレクサンドロス3世の史話、ウェルヴェの幼少期の記憶を題材にした3つの映像が、ウェルヴェが本作の為に作詞作曲したレクイエムと共に、交互に展開する長編作品です。ウェルヴェは、パフォーマンスのドキュメントに歴史的題材と個人的な記憶を織り交ぜることで、抽象性の高い自伝的な映像作品として完成させました。

黒いランニングウェアに全身を包み、ヨーロッパの広大な大地を走り続ける孤独な作家の姿は、ドイツ・ロマン主義画家カスパー・ダーヴィット・フリードリヒの「海辺の僧侶」に重なるでしょう。しかし、ウェルヴェの表現に同時代性を与えているのは、そのようなロマン主義的なノスタルジーではなく、実際に北極点に立ち続けることや、1703.85kmの距離を走破することにある真剣さと愚かしさの諸譚であり、それは現代に生きる作家自身に向けられたアイロニーとユーモアなのです。

現代のアーティストにとって、18世紀の芸術家達のように人間の存在に関わる根源的な命題に向き合うことは有効なのでしょう。ウェルヴェはそれを否定するかのように、本展の出展作品について「共通しているのは、全ての作品が眠つぶしだといえること」と言いました。一方で、作品中の忍耐を必要とするパフォーマンスは、ウェルヴェがそのような命題に沈潜する自問のプロセスのようにも見え、その矛盾を孕む行為が中心に据えられている作品は、破滅的な欲望に突き動かされ到達する「無為の境地」を映しているといえます。そこでは「重苦しい命題」はアイロニーとユーモアによって「軽い問いかけ」となり、懐旧と新鮮さをもって現代に生きる私達の心に響くことでしょう。

《第九番「世界と一緒に回らなかった日」》



《第十九番「郷愁」》



■ 関連イベント 1 | アーティストトーク

作家本人が、代表作である《第 14 番「郷愁」》を中心に自作について解説いたします。

登壇者：ガイド・ヴァン・デル・ウェルヴェ
モデレーター：徳山拓一（京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA 学芸員、本展企画）

会場：京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA 1
日時：2016 年 2 月 21 日（日） 14:00～15:00
料金：無料
申し込み：不要

企画：京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA
主催：文化庁、京都市立芸術大学
共催：公益財団法人京都市芸術文化協会（京都芸術センター）
助成：モンドリアン財団



《第十九番「郷愁」》

■ 関連イベント 2 | オープニングレセプション

ガイド・ヴァン・デル・ウェルヴェ「無為の境地」、奥村雄樹個展「な」、2 展の合同オープニングレセプションを開催いたします。作家が在廊しますので、是非ご参加ください。

会場：京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA
日時：2016 年 2 月 21 日（日） 15:00 - 17:00



ガイド・ヴァン・デル・ウェルヴェ



奥村雄樹 撮影：森本美絵

■ 関連プロジェクト | Artist Workshop @KCUA

京都市立芸術大学では、平成 25 年より文化庁委託事業「次代の文化を創造する新進芸術家育成事業」として、「アーティストの招聘による多角的なワークショップなどを通じた新進芸術家育成事業」を実施しています。今年度は、パヴェウ・アルトハメル (Pawel Althamer, ポーランド) アルトゥル・ジミェフスキ (Artur Zmijewski, ポーランド)、ネリー・ソニエ (Nelly Saunier, フランス)、ガイド・ヴァン・デル・ウェルヴェ (Guido van der Werve, オランダ) を講師として招聘しており、本ワークショップはそのうちの 1 つとなります。

ガイド・ヴァン・デル・ウェルヴェ氏は映像作家であり、クラシック音楽と工学を修めた経歴を持ち、またアスリートでもあります。その為、作品は音楽やスポーツ等の重層的な要素を含み、エンターテインメント性の高い内容となっており、芸術の専門的知識がない観客にも強く訴えかけることができる直接的な作品になっています。本ワークショップは、ウェルヴェ氏との協働を通じ広い視点から育成対象者の作品を捉え直すことで、作品の新たな可能性を発見することを目的とします。さらに、講師とは英語でのコミュニケーションを基本とするため、国際的に活躍するためのコミュニケーションスキルを習得することも期待されます。

ワークショップでは、まず育成対象者が自身の作品についてのプレゼンを行い、招聘講師からの講評を受けます。その後、招聘講師が京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA を会場として、展覧会を実際に設営する作業を通じて、映像インスタレーション、展覧会設計、構築のノウハウを指導します。その後、育成対象者は、同じ会場での展覧会を想定し展示プランを制作し、プランの内容について講師から講評を受けます。

スケジュールは、平成 28 年 2 月 15 日（月）から 2 月 21 日（日）の数日で集中的にワークショップを実施し、その後、メールでの往復書簡によって、講評、アドバイスを受けます。
（※育成対象者は 35 歳以下）

【京都でのワークショップ実施期間】
平成 28 年 2 月 15 日（月）～ 2 月 21 日（日）

【参加アーティスト人数】
5 名程度を予定

企画：京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA
主催：文化庁、京都市立芸術大学
共催：公益財団法人京都市芸術文化協会（京都芸術センター）

■ 展覧会カタログ チラシ

本展のカタログは2016年3月発行予定です。
チラシとカタログのデザインはアートディレクターの
立花文穂氏が手がけます。
詳細は追ってギャラリー @KCUA のウェブサイトにて
お知らせします。
カタログご希望の方は、京都市立芸術大学
ギャラリー @KCUA までお問い合わせください。

ページ数：約 100 ページ



展覧会チラシ デザイン：立花文穂

■ 開催概要

展覧会名称：ガイド・ヴェン・デル・ウェルヴェ 個展 「killing time | 無為の境地」

企画：京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA

主催：文化庁、京都市立芸術大学

共催：公益財団法人京都市芸術文化協会（京都芸術センター）

助成：モンドリアン財団、オランダ大使館

会場：京都市立芸術大学ギャラリー@ KCUA

（住所／京都市中京区押油小路町 238-1）

会期：2016年2月20日（土）-3月21日（月・祝）

11:00 ~ 19:00（最終入場 18:30 まで）

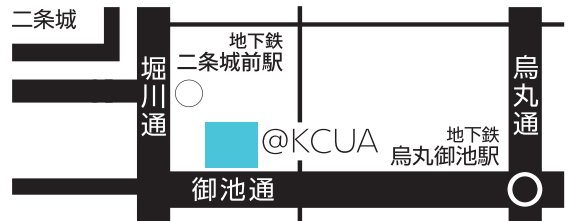
月曜休館（但し 3/21（月・祝）は開館）

入場：無料

お問い合わせ：京都市立芸術大学ギャラリー@ KCUA

Tel：075-253-1509 E-mail：gallery@kcuu.ac.jp

公式サイト：http://gallery.kcuu.ac.jp



京都市立芸術大学
Kyoto City University of Arts — founded in 1880 —

@KCUA
KYOTO CITY UNIVERSITY OF ARTS ART GALLERY



■ プレス向け画像貸出について

本プレスリリースに掲載している画像はメディア掲載時にご利用いただけます。
ご希望の方は広報担当（西谷）までお問い合わせください。